

令和4年度学校努力点

1 テーマ

自他を認め合い、共に高め合う児童の育成

2 研究のねらい

文部科学省は、小学校学習指導要領総則において、「変化が激しく予測困難な時代の中でも通用する確かな学力を身に付けるためには、自分のよさや可能性を認識し、多様な他者を価値ある存在として尊重し、協働して様々な課題を解決していくことが重要である」と述べている。令和3年答申では、新しい時代の学校教育の姿として、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協同的な学びの実現」が提言され、多様化する一人一人の子どもの学習環境を最適化し、子どもの成長を実現することが求められている。

本校では、昨年度からクラス会議を実践し、安心して話し合う雰囲気や、相手の意見を受け入れる態度が育ってきた。日々の生活において、困ったことや関心事をクラス全員で解決していく中で、子どもたちは、「自分の意見を聞いてもらえた」「自分たちで決めることができた」という実感を味わうことができた。また、昨年度、タブレット端末が導入され、児童は意欲的に学習している。しかし、めあての達成に向け、自分なりの学び方を見付けたり、必要な支援方法を選択したりするなど、子どもにとってよりよい学びが実現するには至っていない。また、ペアやグループで対話をして、単に言葉のやり取りであったり、一部の子どもの意見が採用されたりする姿からは、協働しているとはいえない。

このような状況から、本研究では、クラス会議を通して子どもたちに伝える学び会うための協働スキルや、価値・態度を、教科学習（算数科を中心）においても指導していく。また、児童にとって学びやすい環境や方法を選択できるようにすることで、主題「自他を認め合い、共に高まり合う児童の育成」に迫ることとした。

3 本年度の取り組み（具体的な手立て）

① クラス会議

クラス会議を始める前の2～4時間までは、子どもたちが効果的に話し合うために必要な価値やスキル、態度を学ぶ時間とする。これらは、1時間で身に付き定着するものではないので、学んだ後、定着するまで繰り返し声を掛けていく。学級会の基本的な流れは、以下の通りである。

- | | | | |
|---------------|----------------|---------------------------|------------|
| ① 輪になる | ② 挨拶 | ③ 話合いのルールの確認 | ④ ありがとうみつけ |
| ⑤ 前回の解決策の振り返り | ⑥ 議題の提案 | ⑦ 話合い（解決策の拡散と収束・質問・賛成・心配） | |
| ⑧ 決定したことの発表 | ⑨ 先生からのフィードバック | ⑩ 挨拶 | |

② 協働的な学習（算数科）

めあてをつかむ（課題の提示）・自分の考えをもつ（個人試行）・なかまと対話する（協働での解決）・まとめる（学びの共有）・振り返る（次の時間の目標）を基本の流れとする。

協働での解決場面で、交流における関わり方を事前に提示する。学習課題や児童の実態に応じて、適切な関わり方を、交流活動前に指導したり交流後にフィードバックしたりする。

また、児童にとって学びやすい環境や方法を選択できるようにする。

問題解決場面における個別最適な学びの充実

(例1) 個人で取り組む→分からないときは、隣の席の仲間と一緒に取り組む（ペア）→分からなかったら、生活班の仲間と取り組む（グループ）→分からなかったら学習課題を解決できそうな友達を探し、一緒に取り組む

(例2) 自力で問題を解く・仲間に教えてもらう・仲間に教える・仲間と考える・先生に質問する(これらの中から児童が選択する)

4 研究の方法について

(1) 効果の測定材料

- ・Hyper-QU を使用し、「承認得点」「被侵害得点」から現在置かれている子どもたちの状況を読み取る。
- ・子どもの授業中の行動の記録や発言、振り返り用紙の記述から読み取る。

(2) 授業研究

- ・各学級年間2回の授業研究を行う。部会で計画し、実施時期ができるだけ重ならないようにする。
- ・学校開放日や授業参観で、努力点研究（算数科）についての授業公開を行う。
- ・前検討は学年で、事後検討は部会でを行う。

(3) 報告会

中間報告会や最終報告会で、子どもの変容や手立てやについて話し合い、日々の教育実践につなげる。

5 研究組織

